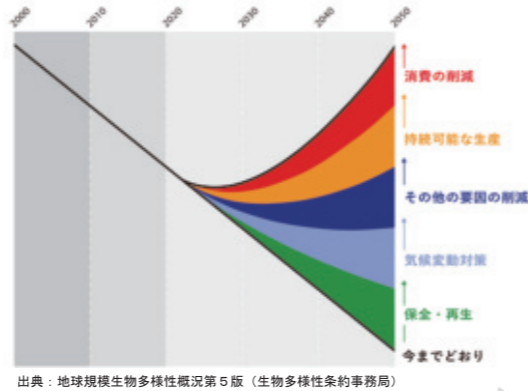


生物多様性に関する世界目標～ネイチャーポジティブ～

ネイチャーポジティブ（自然再興）とは、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させることを意味する世界目標です。「今までどおり」では、生物多様性の傾向は低下し続けると予測されています。さまざまな行動分野が組み合わせられ、生物多様性の低下を遅らせることが可能で、流れを変える可能性があります。



ネイチャーポジティブをめぐるキーワード



① 30by30（サーティ・バイ・サーティ）

2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上を保全する世界目標を「30by30」といいます。日本では、陸域20.5%と海域13.3%が保護地域として保全されています。

② OECM (Other Effective area-based Conservation Measures)

保護地域以外で生物多様性の保全に貢献している場所を「OECM」といいます。OECMとして登録することで、その場所の大切さをみんなが共有し、一緒に守っていくことにつながります。
OECMの例：企業の森、ビオトープ、里地里山、都市内の緑地・公園、河川敷、建物の屋上 など

③ 自然共生サイト

民間企業や地方公共団体、個人の取組などによる生物多様性を増進する活動計画を国が認定する制度です。認定された活動の実施区域を「自然共生サイト」と呼びます。大阪府内でも認定数が増加しつつあります。

今後も、世界や国の動きに関する最新情報をみなさんに発信していきます！

【発行】高槻市 農林緑政課（TEL:072-674-7402）

【協力】高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）

※【写真提供】あくあびあ芥川共同活動体（高槻市立自然博物館 指定管理者）

【作成】令和8年3月

高槻市には 豊かな自然がいっぱい！



● 生物多様性とは

生物多様性とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのこと。私たちが人も含めた多くの種類の生き物は、自分たちの生きる場所を見つけ、互いに違いを活かしながら調和しています。この調和していることを生物多様性といいます。生物多様性を守るには、次の3つのレベルで保全していくことが重要です。

生態系の多様性

いろいろなタイプの自然があること

森林、里地里山、河川など、いろいろなタイプの自然があります。

種の多様性

いろいろな生き物がいること

動物、植物、微生物など、いろいろな生き物がいます。

遺伝子の多様性

同じ種でも多様な個性があること

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様などに多様な個性があります。

高槻市のこんなところに豊かな自然が！

高槻市には、森林、里山、芥川、鵜殿のヨシ原など、さまざまな生き物が関わりあう生態系の豊かな地域が数多く残されています。

それぞれの環境には、その環境にあった生き物が生息しています。どこにどのような生き物がいるのか見てみましょう！



高槻市の取組

『第2次高槻市みどりの基本計画』において掲げている将来像「豊かな環境をもつみどりが多様な生き物のすみかとなり、人と生き物が持続的に共生できるまち」を実現するため、さまざまな取組を進めていきます。

生き物の生息環境の保全

市内のいろいろな地域で、多くの生き物が生息する環境を守ります。津之江公園自然再生エリアでは、市民と協力して保全に向けた取組を進めます。

草刈りなどの整備活動



植物や昆虫、野鳥の観察会



小学生向けの環境学習



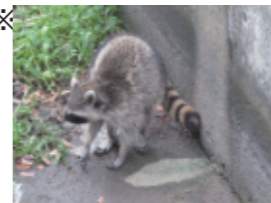
特定外来生物の駆除

特定外来生物の駆除に、市民や関係機関と協力して取り組みます。農業や生態系への被害の拡大を防ぐため、根気よく取り組む必要があります。

オオバナミズキンバイの駆除活動



アライグマ



クビアカツヤカミキリの成虫



クビアカツヤカミキリの幼虫が排出するフラス



特定外来生物とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、法律で指定された動物や植物のこと。飼育・栽培・保管・運搬の禁止など様々な行為が法律で禁止されています。高槻市には、アライグマやクビアカツヤカミキリなどの動物、ミズヒマワリやオオバナミズキンバイなどの植物の生息が確認されています。

生物多様性保全の市民への啓発

市民の主体的な活動につながるよう、人と動植物が共生することの重要性などをわかりやすく情報発信し、市民への啓発を図ります。

高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）



高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）は、高槻の自然がわかるみんなの博物館です。館内には、芥川の魚・カメ・カニなどの水族館や、鳥・哺乳類・昆虫類・化石・岩石などの標本展示室があります。生き物の質問や相談などがありましたら、気軽にお問い合わせください。